

令和元年度

中南の

社会教育



高校生がプレゼン力を発揮!!

「地域のお宝物語」プレゼン大会 2月1日(土)



2月1日(土)アピオあおもりを会場に、「地域のお宝物語」プレゼン大会が行われました。昨年度の中間発表会からさらにパワーアップした県内12実行委員会の高校生が、自ら感じた地域の良さを堂々とプレゼンしました。

中南管内からは2つの実行委員会が発表を行いました。黒石市実行委員会は、上十川地域のお宝についてプレゼンし、地域愛特別賞を受賞しました。審査員からは獅子踊りを継続していくための後継者の現状についての質問があり「高校3年生、中学3年生の後継者がいるものの、まだまだ不足しています。」と答えていました。

大鰐町実行委員会は、これからの大鰐町をPRする活動についてプレゼンストーリー特別賞を受賞しました。審査員からはキャラクターグッズの商品化について質問があり「大人の方と相談して決めていきたいと思います。」と答えていました。



各実行委員会の発表テーマは以下の通りです。

- <むつ市> おーちゃん和ゆく! ワクワク大湊探検隊
- <大鰐町> OH!!鰐 元気隊キッズが町を元気にする!
- <三戸町> 郷土の食を学び、三戸町“粉もん文化”の新レシピを紹介
- <平内町> 平内町とハクチョウとおばあちゃんと。
- <青森市> 男の3分間クッキング 青森魅力発信編
- <三沢市> みさわBBQの魔法
- <黒石市> 上十川に語り継がれる伝統文化
- <階上町> はしかみキッズではしかみいいところ広め隊!
- <つがる市> 僕らの初恋物語「馬ねぶたに捧げた夏」
- <東通村> 東通村の地域資源を活用した「社会起業」
～高校生カフェ「Re Youth」の設立に向けた挑戦～
- <五所川原市> おいでよ春夏秋冬ごしょがわら
- <野辺地町> 素晴らしき四季 ～魅力あふれる野辺地町～
高校生の熱のこもったプレゼンに会場は大いに盛り上がりました。青森県の未来を担う高校生を頼もしく感じる事ができた一日となりました。



Index

◎「地域のお宝物語」
プレゼン大会.....1

■ スキルアップ

- ◎社会教育を核とするネットワーク
活用促進事業(平川市).....2
- ◎子どもの読書活動推進大会.....3
- ◎学び直しの機会の充実.....3

■ ネットワーク

- <事業訪問>
- ◎こどものまち Vol.5
(弘前大学).....4
- ◎総合型スポーツクラブ野球教室
(田舎館村).....4
- ◎スポーツフェスティバル
(西目屋村).....4

スキルアップ 社会教育を核とするネットワーク活用促進事業（地域課題の解決）

6次化×活性化×やってみつ化

平川市教育委員会は、地域の実践者である「Asobo!Hirakawa」と連携し高校生育成及び地域活性のために社会教育を核とするネットワーク活用促進事業を行いました。高校生が平川市の特産であるリンゴにおいて、市場に出せない品質の「訳ありリンゴ」について生産者から伺うとともに、飲食店で実際に提供できるりんご料理の開発及びプレゼンの実施を通して、地域産業の実情と飲食業界の仕事について学びを深めることを目的としています。参加した高校生は7名（柏木農業高校2名、尾上総合高校3名、弘前中央高校2名）です。第3回目の道の駅いかりがせきでお客様に提供できるメニューを開発し、当日10食以上を販売することで今後の定番メニューになることを目指して活動が行われました。

<第1回目> 11月16日（土）9：00～16：00 平川市文化センター調理室



アイスクレークから始まり、リンゴ生産について、訳ありリンゴの価値や販売などについて説明がありました。その後、それぞれの班で訳ありリンゴを使ったメニューを考えました。平川市文化センター内の図書館の資料やスマートフォンから情報を入手し、メニュー開発サポーターのアドバイスを受けながらメニューを決めていました。

<第2回目> 11月30日（土）9：00～16：00 平川市文化センター調理室

実際に材料を調達し、調理を開始しました。同時にプレゼンテーションの準備を行い、昼食を兼ねてプレゼンテーションを行いました。各班のメニューは「白雪姫の忘れ物（リンゴを使ったハンバーガー）」「苹果定食（リンゴを使った麻婆丼）」「りんごの花咲くうどん」「ミーラピッツァ」「驚きの玉手箱（リンゴ入り春巻き）」でした。審査員は道の駅駅長、平川市教育委員会生涯学習課担当者等が務めました。当初は一つのメニューに絞って販売する予定でしたが、どのメニューも素晴らしく甲乙つけがたかったため、すべてのメニューを販売することにしました。さらに、午後からは販売促進のためのポップづくりを行いました。



<第3回目> 12月22日（日）10：00～15：00 道の駅いかりがせき



来場するお客様に対してチラシを配り宣伝活動を行いました。当日は「クリスマス感謝祭」が行われ普段より来客者が多い中、高校生は自分たちが作ったメニューを一生懸命に紹介し、一食一食注文が入るたびに喜びの表情を浮かべていました。結果としてすべてのメニューを10食以上売り上げることができました。

目的が明確であり、実施方法も適切であったため、高校生は大きな成長を見せました。特に販売活動では、自分が考案したメニューが売れること、おいしかったと言ってもらえたことが、実感を伴った何よりの評価となりました。活動を通して、高校生は地域の実情を知り、飲食業の実際を肌で感じることができました。

あさのあつこ先生を招いて！！

子どもの読書活動推進大会 12月14日(土)



12月14日(土)ヒロロ内にある弘前市民文化交流館ホールを会場に「令和元年度子どもの読書活動推進大会」が作家のあさのあつこ先生を招いて行われました。

開会行事の後、あさの先生の講演はトークセッションで行われました。青森大

学の秋田敏博教授のコーディネートにより、弘前高校1年の中村元紀さん、高橋知南さん、弘前実業高校1年の金田白羽さん、工藤瞳子さんの質問にあさの先生がお答えする形式で進んでいきました。高校生が発する生の声の質問に対して、あさの先生が飾らない言葉で答えていくたびに、会場は温かな雰囲気になっていきました。作家になったきっかけ、作品のアイデアがどのように出てくるかなど、あさの先生のファンはもとより本好きにとってはかけがえのない時間となりました。引き続き県の事業である「大切なあなたへ薦める青春の一冊」コンクール表彰式及び受賞者による本の紹介が行われました。真剣なまなざしで、お薦めする本の素晴らしさを紹介する中学生・高校生の姿に対して会場の参加者から多くの質問や感想が寄せられました。閉会行事の後には、あさの先生のサイン会が行われ、あさの先生との交流を深める和やかな時間がいつまでも続きました。



本年度のコンクール最優秀受賞者は以下の通りです

<中学生の部>

青森市立浦町中学校 1年 水尻 篤宏 さん
「大村智ものがたり 苦しい道こそ楽しい人生」(馬場 錬成/著)

<高校生の部>

青森県立青森西高等学校 2年 小笠原 早紀 さん
「十歳のきみへー九十五歳のわたしから」(日野原 重明/著)

※優秀賞他は県のホームページを御参照ください。過去の受賞作品等、読みたくなる本がたくさん紹介されています。

学び直しの機会の充実のために

青森県社会教育行政の重点「活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成」では「多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実」が掲げられています。県民の主体的なキャリア形成を総合的に支援するため、本年度「学び直し推進会議」を3回行い、大学、専門学校、関係部局、各種団体等が参加し産学官民のネットワークをもつことができました。また、県内3地区では5回の「若者・女性向けのキャリア・プランニング講座」を開催し就業に向けた学び直しのきっかけづくりを行いました。



「Re-Learn Aomori リ・ラーンあおもり」を開設します

3月からは学び直しを通じたキャリア形成支援ポータルサイト「Re-Learn Aomori リ・ラーンあおもり」を開設します。学習機会を調べることや支援情報を調べるほかに、eラーニングコンテンツとして、本年度に行われた若者・女性向けのキャリア・プランニング講座等の動画を視聴することもできます。開設後は新着情報を随時更新していきますので是非、ご活用ください。開設は3月中旬の予定です。

事業訪問

中南教育事務所では各市町村の事業を取材し、情報の共有及びネットワークづくりを支援しています。

ネットワーク

こどものまちミニひろさきvol.5 (弘前大学) 1月12日(土)13日(日)



1月12日(土)・13日(日)弘前大学を会場に「こどものまちミニひろさき vol.5」が開催され、中南管内約340名の児童が参加しました。このまちでは、したいこと、やってみたいことを思う存分体験できます。こどものまち銀行、ラジオ局、ホームセンター、観光館、カフェ、お菓子工場などいろいろなお仕事に挑戦したり、新たにお店を出したり、



舞台発表を行ったりと様々な体験を通してまちができていきます。

ここが魅力

弘前市内の小4~6年22名及び中高校生10名がこどもスタッフとなり、11月から5回の準備会議が行われました。スタッフの立場を知ること子どもたちは大きく成長します。参加者としてだけでなく、スタッフとして活動することも魅力の一つです。

総合型地域スポーツクラブ 野球教室 (田舎館村) 1月23日 (木)



田舎館村では本年度から総合型スポーツクラブ設立準備委員会を設置しクラブ設立に向けて活動しています。児童クラブではヨガ、空手、ラグビー教室を、村内の4保育所では野球、サッカー、バスケットボール教室を行っています。1月23日は畑中保育所で野球教室が行われました。年長23名は、投げる、捕る、打つの基本動作を楽しみながら学びました。お話を聞く態度も立派で楽しい中にもメリハリのある活動でした。また、インドア・テニールの用具使用により室内でも安全に活動ができるよう工夫されていました。

ここが魅力

子どもたちに様々な競技を小さい頃から体験できる環境づくりを行いたいクラブと、多様な体験活動を行いたい保育所の目的が一致しており双方にとってwin-winの関係となっていました。



スポーツフェスティバル (西目屋村) 2月8日(土)9日(日)



広く村民にスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより村民一人一人の参加意欲を喚起するとともに、村民の生涯を通じたスポーツ活動の実践を図り健康で文化的な生活に資することを目的に行われました。アトラクションは①巨大エアトランポリン、すべり台②ミニランプ(スケートボード)③ホストタウンコーナー④ボルダリング⑤インラインスケート⑥スラックライン⑦ミニセグウェイ⑧ゴールボールの8種目でした。外には屋台の出店があり、お昼を楽しむこともできるようになっています。ホストタウンコーナーではカヌー体験が行われ

普段なかなか体験できない競技に参加者は大喜びでした。



ここが魅力

西目屋小学校との連携により8日(土)は出校日として参加しています。時間を区切って全てのアトラクションを体験できるようにしていました。また、東西目屋交流事業として東目屋小・中学校にも参加を呼びかけており、たくさん子どもたちが様々な競技を楽しんでいました。